

## 知的障害者とスポーツの関わり

### The relation of mentally-disabled persons and sports

1K06A134

指導教員 主査 内田直先生

杉本 裕美

副査 矢島忠明先生

#### 【目的】

障害をもつ方々のためのスポーツは、障害の種類によって分けられる。大きく分けると、ろう者、身体障害者、知的障害者、精神障害者の4つに分けられるが、競技大会などではもっと細かく障害の種類に分けて競技は行われる。この大きく4つに分けたグループでは、それぞれ独自の歴史があり、競技大会やそれに関する組織なども異なっている。障害者のためのスポーツは、元来、リハビリテーションから発展してきたものであった。それが徐々にレクリエーションスポーツへと発展し、近年ではさらに、競技スポーツへとその目的を広げてきている。今日、知的障害者スポーツに対しても、競技性を強めようとする考えが広まる中で、「知的障害をもつ方々がスポーツにたいしてどのような考えを持っているか」、「知的障害をもつ競技者に自主性を求められるか」などといった競技者自身の考えを知ることが、競技者と指導者の関係を向上させることにつながり、今後の知的障害者スポーツの発展においても大きな意味を持つことであると考えられる。

#### 【方法】

神奈川県横浜市のNPO法人施設に通う、知的障害をもつ63名(男31名、女32名)に対し、知的障害をもつ人々のスポーツに対する意識を探るためのアンケート調査を行った。調査項目は、施設利用者のプロフィール、過去のスポーツ経験、現在のスポーツ実施状況、スポーツに対する考え方など、利用者全員に6項目、

一度でもスポーツ経験のある者にさらに5項目の質問を行った。

#### 【結果】

スポーツをすることに對する意欲に関して、男性約81%、女性約56%、全体の約68%が「スポーツをしたい」と回答した。スポーツの必要性に関しては、男性約90%、女性約78%、全体で約84%が「スポーツをしたほうが良い」と回答した。またその理由としては「健康のため」、「体力がつくから」などの意見が多かったが、少数意見として「精神的ストレスが解消されるから」、「仲間とのコミュニケーションの場であるから」、「色々な人と関わりがもてるから」などの意見もあった。スポーツをしたことがある者に対する質問では、スポーツを始めたきっかけとして「自分から」と回答した者は全体の約37%、「勧められて」と回答した者は約44%、「その他」は約19%であった。「これからもスポーツを続けて行きたいか」というスポーツに対しては、男性約86%、女性約76%、全体の約81%が「はい」と回答した。

#### 【考察】

スポーツをしたいと思うか、という質問では、男性が約81%「はい」と回答したのに対し、女性は約56%しか得られなかった。女性よりも男性のほうがスポーツを実施する傾向があるというのは一般的なこともかもしれないが、スポーツの必要性を感じているにも関わらず、実際にスポーツをしたいと思う者が少ないという点にお

いては、今後の改善の余地があるように思われる。スポーツに一度でも取り組んだことがある者は全体の約86%であったが、その中でスポーツを始めるきっかけとなったのは、「自ら進んで」という回答よりも、「人に勧められて」という回答のほうが若干多かった。今回の調査で障害者スポーツの振興には、周りで支えるかたの支援の必要性を感じた。障害者と地域の人々が共にスポーツを行い交流を図ることは、障害者に対する理解を深め差別や偏見を取り除き、障害者の社会参加の促進に繋げることができるであろう。